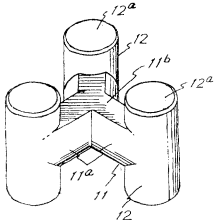


### 捨石防波堤の構成部材

特公昭 36-13675

発明者 パルマー, R.Q.

防波堤の構成ブロックに関するもので共通点において結合されそこから放射する複数の脚(11)を有する中央スパイダと、各スパイダ脚の外端に取りつけられた延長された直角棒(12)とからなり、各直角棒の幾何学的長軸は直角棒が取り付けられたスパイダ脚の幾何学軸にほぼ垂直に配置されているものである。



### 不安定水ガラス注入方法

特公昭 36-15965

発明者 樋口 芳朗

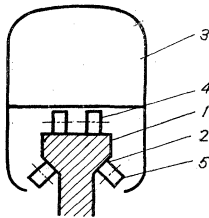
トンネル掘削作業などにおいて地下水の浸水あるいは地盤の崩壊などを防ぐため地盤の空げきに充填する不安定水ガラスの注入方法に関するもので、水ガラス水溶液とセメント懸濁液の混合物中に沈殿物の生成を妨げるのに十分なベントナイトあるいはカルボキシルメチルセルロースを含有せしめたグラウトを注入するようにしたものである。沈殿物の生じにくいグラウトの配合として水ガラス(比重約1.46)200cc,水200cc,セメント10~18grを混和したグラウトにベントナイトを加え、その添加量を増加してゆくと6~3grを境にして沈殿が急激に減少したという実例があげられている。本注入方法によればミキサ、注入管などにたまる沈殿物をきわめて少なくすることができ作業能率の向上をはかることができる。

### モノレール軌道体

特公昭 36-16754

発明者 川野 博史

走行体(3)が軌道体(1)を鞍状に挟持して走行するモノレール軌道体に関するもので、軌道体(1)の両下面に傾斜面(2)を形成し、この面を走行体の安定兼誘導車輪が接触走行するようにしたものである。走行体および軌道体の重量を増大することなく一段の安定兼誘導車輪で走行体の安定性を得ることができ走行体の誘導を行なうことができる。また線路の一定区間、たとえば停車場あるいは勾配区間に高さ方向の変形部を設けることによって走行体側に関与せず荷重支持兼動力車輪(4)の粘着力を増大させる利点を有する。

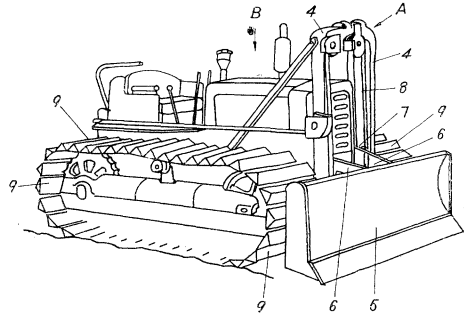


### 湿地用ブルドーザーの排土装置

特公昭 36-16783

発明者 稲木 茂

車体(B)の前端部に履帯(9)の内側にヤグラ状に組立てた案内機構のみぞ型鋼(4)(4)のみぞに、排土板(5)の後部に取



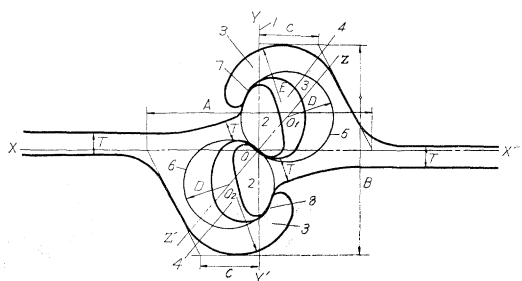
りつけた支持体(6)(6)に軸着した車輪(7)(7)を嵌ませ排土板(5)が案内機構に沿って、上下動できるようにした湿地用ブルドーザーの排土装置であって、従来のブルドーザーの排土装置が排土板を支持するいわゆる押ばりを履帯外側の車体に軸止されていたため、湿地用としてブルドーザーの履帯巾を大にして接地圧を小さくする場合押ばりの中が異状に広くなり鉄道車両などの輸送に困難をきわめていたが、この排土装置によれば上記のような欠点をなくし、履帯巾を最大限にとることができ湿地用として有効なものである。

### 直線形鋼矢板

特公昭 36-15969

発明者 嶺 次男

直線形の鋼矢板に関するもので、接合部中立軸線 $XX'$ 線と交点 $O$ にて $YY'$ 線を直交せしめ、交点 $O$ を通り $XX'$ 線とほぼ $45^\circ$ の傾斜 $ZZ'$ を設け、この傾斜線上に中心を有し交点 $O$ で外接する同一半径の二つの円(5)(6)を画き、円上で円接触(7)(8)し交点 $O$ において点接触するとともに適当な内側間げき(4)を有するように内側爪(2)および外側爪(3)を形成したものである。外側爪は回転接触状態においても円接触を保持し水密性良好であり、爪引張力をウェブ強さ以上に保有させウェブ強さを限界強さにとることができて爪引張力は十分保証される。



(特許庁審査二部 荒木 達雄)